

建築物最適化計画説明会を開催

建築物最適化計画説明会は6日、生涯学習センターで行われました。

同計画は、市が保有している公共施設の建築物を集約化、多機能化などする方針を定め、安全で効率的な維持管理を図るもの。市は29年度から同計画の策定を進めており、今回の説明会では、計3回行われた「公共施設を考える市民議会」での検討結果の報告や、その報告内容を受けて作成した基本方針案の説明を行いました。

計画では少子高齢化や人口減少といった社会的背景、今後の市の財政状況、公共施設の老朽化などを踏まえ、30年間で建築物の延床面積の約3割を削減する方針を説明。その上で、市を市域、近隣圏、生活圏の大中小3つの区域に分類し、教育施設や介護施設、公営住宅など17の施設機能をどのように配置するかの概要を明らかにしました。

同説明会後半の基調講演では、三菱UFJリサーチ&コンサルティング主任研究員の西尾真治さんが公共施設のマ

ネジメントによる地域づくりの事例やポイントなどを紹介しました。講演ではさいたま市や牧之原市、花巻市で実際に自身が関わった経験を踏まえ「住民の理解と協力が必要不可欠。対話を通じて、市全体の動きにすることが重要」と話しました。

市は今後、地域や関係団体に向けた説明会やパブリックコメントを実施し、年度内の計画策定を目指します。

9期連続で住みよさランキング県内1位

全国の都市を対象にした「住みよさランキング2018年版」(東洋経済新報社)が発表され、北上市が9期連続で県内1位(全国288位)になりました。

「住みよさランキング」は、同社が独自に算出しているもの。人口密度や労働力人口などの数値を、安心度、利便度、快適度、富裕度、住居水準充



さまざまな事例を紹介する講師の西尾さんの話に耳を傾ける参加者

実度に分類して偏差値を算出し、その平均を総合評価としてランキングしたものです。同ランキングは平成5年から東日本大震災があった23年以外毎年公表されており、今年で25回目になります。

指標の一部変更により各項目の順位が下がりましたが、住宅着工数の増加により快適度は前回よりも上昇しました。

ママの子育て応援します!

7月から「訪問型産後ケア事業」を開始しました!



★訪問型産後ケア事業って…★

出産後の心配事や困っていることについて、助産師がご家庭を訪問して相談・アドバイスするケア事業です。

<具体的には>

- ・自分にあった授乳の仕方や育児手技のアドバイス
- ・ゆっくり話をしながら、体と心がリラックスできるアロマトリートメント
- ・乳房マッサージや沐浴の実施
- ・赤ちゃんの発達・発育や、お母さんの身体と心、生活についての相談

■利用できる人…市に住所がある産後4カ月未満のお母さん

■自己負担金…1回につき3,000円(約3時間)

■利用日時…午前9時～午後5時

■利用回数…最大4回まで

■訪問エリア…市内

■申し込み先…健康増進課

※日程などについては、申し込み後に調整します



問い合わせ 健康増進課 ☎72-8297

「市民提案型協働事業」審査会の公開プレゼンテーションを開催

市民提案型協働事業の公開プレゼンテーションは3日、本庁舎で行われました。同事業は、本年度からまちづくり協働推進条例の「協働提案」に基づいて実施しているもの。

市と審議委員が提案内容を審査し、市民の協働によって相乗効果が期待できる事業であれば市の協力が得られます。

提案者の北上市民俗芸能団体連合会は、民俗芸能の保存と伝承、後継者育成のための

取り組みとして、①市内小学校での芸能公演と体験会の開催②民俗芸能発表会の開催の2点を提案し、民俗芸能団体の衰退や後継者不足の対策を訴えました。

同日の審議の結果、提案内容は採択され、市から200万円の交付が確定。市と同連合会は、提案事業の年度内実施に向けて始動します。市は、来年度も同審査会を行い、協働に取り組みます。

災害に備えて

第1次収容避難所開設訓練を実施

第1次収容避難所開設訓練は6月27日、16地区の交流センターと北上勤労者体育センターで行われました。同避難所は、震度5強の地震や、洪水・土砂災害の避難勧告などに応じて、各地区交流センターや勤労者体育センターに開設されるものです。

今回の訓練は震度5強の地震が発生した想定で、実際に災害が発生した際に対応する市職員と各地区の交流セン

ターなどの職員が参加。招集メールを受けた職員が集まり、各避難所で被災状況や備蓄倉庫の内容物などを確認したほか、水害が予想される地域では水害時収容避難所への移動訓練も実施しました。最後に避難所運営に関して、見直すべき箇所や改善点などについて市職員と交流センターなどの職員が意見交換を行い、訓練を振り返りました。



民俗芸能の後継者不足対策などを訴える、北上市民俗芸能団体連合会会長の菅原晃氏

市内の避難者状況(みなし仮設住宅入居者)

(6月30日現在)

| 県市町村 | 山田町 | 大槌町 | 釜石市 | 大船渡市 | 陸前高田市 | 宮城県 | 福島県 | 合計 |
|------|-------|--------|--------|-------|-------|------|------|---------|
| 世帯 | 5(-2) | 15(-3) | 8(-3) | 2(-3) | 4(-3) | 2(0) | 1(0) | 37(-14) |
| 人数 | 8(-3) | 26(-4) | 18(-4) | 4(-4) | 5(-4) | 3(0) | 2(0) | 66(-19) |

※()は前月比。市で把握している人数です。

※広域避難者の住宅再建が進んでいることや、みなし仮設入居者や転入被災者などの変動も小さくなっていることから、4半期ごとの掲載としています。

シビックプライド



「KitaComing!北上市」は、当市がきたかみ都市ブランド推進市民会議のご協力をいただいて作成した、都市ブランドメッセージであり、「あじさい」のロゴマークと共にさまざまな場面でご利用いただいている。これは、あじさい都市への戦略の一つである、シティプロモーションの一貫であり、シビックプライドの醸成を主な目的としている。

東京理科大学の伊藤香織教授はシビックプライドを「都市をより良い場所にするために、自分自身が関わっているという当事者意識に基づく自負心」と表現している。また、

関東学院大学の牧瀬稔准教授は情報誌「地方行政」の中で次のように記している。「シビックプライドの醸成に成功していると指摘される北上市の事

例を紹介する。2015年国勢調査によると、岩手県全体では2010年比で3・8%人口を減少させている。一方で、北上市は0・4%の人口増加である。同市の人口増加の要因はさまざまあると推察される。その中で、同市が推進しているシビックプライドを一つの基調としたシティプロモーションの効果もあると指摘できる。(中略)キーワードは「まち育て」である。まち育てにより醸成した愛着や誇りを魅力ある都市形成につなげていく事を目指している。北上市の都市像は「あじさい都市」である。市内それぞれの地域コミュニティが独自の資源を活かしながら自立した地域として、あじさいの花のように咲き誇ることを意図している。(中略)同市はシビックプライドを地域の「誇り」と捉えている。

今年もまた全国都市の住み良さランキングで岩手県第一位の評価をいただいた。9期連続である。それぞれの地域の「まち育て」が「地域の『誇り』」を今まさに咲かせようとしているのだ。その努力に心から敬意と感謝を表したい。